

# 2021 年度 G T セミナー GT サミット 2021

第243号 2021年10月25日発行

## ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や  
ご要望に応えるコンシェルジュがいる  
ように、保育においても様々な  
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=  
ミマモルジュとして、保育に関する  
ご要望にお応えしていけるよう  
活動していきます。

株式会社カガヤ 奥山卓矢

## GT サミット 2021

2021年10月19日、20日に「GT サミット 2021」を  
赤坂スターゲートプラザで開催し、Zoom でも同時配信しました。

全国から70施設を超えるお申し込みを頂き、これからの保育に  
ついて学んでいきました。

### 1 日目 2021年10月19日 (火)

13:30~ 講演 GT 代表 藤森 平司 「今後の保育の歩む方向」

15:30~ 休憩

16:00~ 講演 鈴木 寛様 「これからの教育と幼児教育」

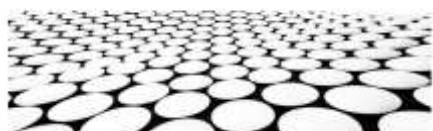
18:00 1 日目終了

### 2 日目 2021年10月20日 (水)

9:30~ リレー講演

12:00~ 終了

今後の保育の歩む方向



## —はじめに—

皆さんこんにちは。コロナが落ち着いて皆さんにお会いできると思ったが、先週、長崎に1年半ぶりに行って、皆と話をしていたら風邪を引いてしまった。長崎で顔が見れてよかったが、Zoomで参加者と顔が見えるが、意外とそういえばそうだと思ったのが会場の人の顔が見えない。明日、会場に行ければ行ってお会いしたいと思います。久しぶりに会ってこういう話をするが、コロナが自粛の間、何をして何を考えていたかと思うんですけど、自粛がどういう意味の自粛なのか。外に出てはいけないのか、人に会ってはいけないのか、ということが自粛なのか。様々違うことがあるが、私の考えている自粛は、外の人と会えない間、何か違うことが出来ることだと思っています。この間、色々なことをした。妻からも「コロナのおかげだね」とよく言われるが、いろいろなことをしました。じっとしているわけではなく、コロナだったら何をするか。皆さんはお若いからいいが、私としては1年1年が大事なので、空白を作りたくない。この間に何をすればいいかということでZoomがあるので、Zoomで講演ができる。しかし、その多くは中国での講演が多いです。日本はZoomでやらないで、中止が多くしなかった。そういう意味でも、新しい講演。STEMについて後ほど触れるが、新しい時代の科学、テクノロジー、マスマティック、エンジニアリングが必要だろう。幼児期にも必要だろうと、一般社団法人乳幼児STEM財団を作りました。いろいろなことをしていましたが、それ以上に最近考えることがありました。私たち保育園は、補助金で運営をしています。補助金の中の運営でずっとやってきたわけですけど、ここにきて企業立が増えてきて、企業的な感覚、企業からの投資、上場するなど、企業的な考え方が保育界にも入ってきました。企業が入ると言っても、最初はサービスかどうかだったが、最近はそうではない言葉が入ってきました。教育界でも、企業で使われる言葉が入ってきました。一般の社会に対しても開かれていくような職業になりつつあります。逆を言えば、競争原理が働いてくるのかなと思います。時代がどうなるかということ。

## —質問により考えること—

そういう中で、ある投資家が私のところに来ました。GTに投資をするかどうかを判断するために質問をしました。その質問は、私が考えたこともないようなことがいくつかありました。社会福祉法人や保育園、補助金の中でやっていたら考えてもなかったが、その質問を受けることで考えることがありました。何のために保育園をやっているのかとか、何のためにGTを作ったのかを考えて、ふと、モンテッソーリが教具を作った時は、どんな気持ちだったのだろう、フレーベルは恩物を作って、何をしたかったのだろうと考えてしまった。皆さんの中にいるかわからないんですけど、いくつか問い合わせがあって、帝国バンクから電話があってインタビューを受けてもらえるかと。私の考えを聞きたいけど、いいかということで、先方からすると誰から依頼をされたかは言えません。私のインタビューをしたあとに、依頼者に答えるけど、どう答えるかは言えません。謝礼があるわけでもありません。答えるかは自由だが、答えてもらえるかを聞かれました。私は隠すことがないので答えました。そういう人たちが何を聴くか興味があったので聞いてみた。あなたがやりたいことはなんですか？と聞かれた。それは例えば、保育園をいくつか作りたいたいのか、お金を儲けたいのか、世界に進出したいのか、有名になりたいのかということ聞かれるんですね。改めて聞かれたときに、自分が何をしたいのかを考えてしまうことがあって、私が考えたことをお話ししました。そしたら、その人も聞く相手は普段は企業の人なのでしょうね。私のインタビューの後にその人は、「私が依頼主にどう答える

かをあなたに言えません。ただ、少なくとも言えるのは、あなたの話を聞いて、私は感動しています」と言ってくれた。企業相手の質問ですから、私の答えは聞いたことがないのかもしれないですね。違う世界なのだろうなと思いました。今どきですが、ある探偵社から電話がありました。普通、私が浮気をしているか妻が調べさせるかもしれないけれど、そうではなくて、探偵社が言うには、昔、日野台第三小学校に勤めたことのある藤森さんですか？」と聞かれた。その頃の同僚が探していますと言われた。同僚が探すならいいと思って答えた。同僚なので教員なのだが、ネット検索で私の名前を入れればすぐわかりそうなものにと考えた。そういう世界もまだあるのだなと思った。コロナの間にいろいろなことを想いました。投資会社が質問をしたということに対してまず、一つが皆さんにも参考になるかもしれませんので、自分がやりたいことに含めて、一緒に考えたいと思います。

## — 2歳児クラスの単独の意味合い —

投資会社がどういう質問したかを共有したいと思います。見守る保育では、2歳を1つのターニングポイントと捉えているが、どのような環境を保育者は作っていくのか？投資会社は保育者ではないので、そういう質問がありました。まず一つが、どこで子どもたちを区切るかというのが、部屋の広さや合同にしているところがあります。01歳を合同にするとか、1,2歳、0,1,2歳とかクラスを合同にするところがあります。イエナプラン、シュタイナーも子どもの区切りを考えています。それぞれ違いますが私は、世界の中であまり聞いたことがないが、大きくステージを3つ作っています。0,1、2歳、3,4,5歳のステージの3つに分けています。1,2歳が合同の時はどうかを聞かれることがあるが、具体的に分けるかは別だが、私の提案したい保育、「見守る保育」と言っているかわからないが、主張したい内容は、子ども同士の関わりから子どもの発達をしていくという、それが一番訴えたいポイントです。

## — 人類の集団形成 —

繰り返しになりますが、人類はまず大きく言って私たちの祖先のホモサピエンスは、協働する・協力する集団を形成してここまで進化してきた生き物です。人類が誕生したころは、ネアンデルタール人は頭がよく、道具を作っていたが集団があまり大きくなかった。ホモサピエンスは集団が大きくなることで、道具が進化していきます、これは共同思考力と言って、知恵を集めて新しいものを生み出す力を持っています。これを人類は引き継いでいて、共同思考力があります。まず一つです。協働するために集団を形成していきますが、家族から社会という集団を作ります。当然、お互いすり合わせるためにはストレスがたまったり、意見が違ったりします。すり合わせるためには、議論をしないといけない。それは脳が大きくないとできないです。ホモサピエンスは集団の大きさに比例して脳が大きくなっていくんですね。私は子どもたちの集団、その中で共同思考力という、集まって考えていく力を保育の中心にしたいことが大きなポイントです。見守るという言い方をすると、手を出さなくて、見ているといことを特徴的に思い、言う人がいますが実はそういうことではないです。手を出さなくて見ているというのは、手を出さないのでなく、子ども同士の関わりを主にしたいから、大人が手を引くことです。人類が生きてきた共同思考力を、もう一度つけていこうということです。2つ目は保育園の存続にかかわることですが、人類は短い出産期の中で、子どもを多く産まないといけなかった。そのためには毎年産む方法を取った。毎年産むためには、上の子が9か月くらいになったら、離乳をしないと生理が起きない。8、9か月になると離乳をして、お母さんの膝から降ろします。まだまだ未熟です。母乳をやめてしまうと急に普通食にはできない。それを可能にしたのが、人類は火を使っていた。そのために離乳食という普通食と、母乳の間のものを作れることが可能にした要因です。もう一つは家族という形態を作り、家族で子どもを見た。お母さんから離しても可能になった。家族だけではなく、家族が集まった社会の中で、子どもたちを見ていた。京大の明和先生が言う共同保育をしてきたということですね。人類は8、9か月から共同保育をしてい

くことで、お母さんは次の子を産む準備が出来ることがメリット。共同保育をすることで、集団の中に入るため脳が大きくなっていく。これが脳のセンシティブリティの感受性の高さを生んだんですね。1歳前後がピークになるんですね。協働保育がはじまってから、急激に大きくなるということがあると思うんですね。その中でトマセロという「人は、なぜ協力するのか」を書いた人は、9か月革命と言っています。「他者を、意図ある存在として認識しはじめる」と言っています。二項関係から三項関係に置くべきだと言っています。赤ちゃんはかつて、母子の間だけで育てられたのではなくて、社会ネットワークの中で育てられてくる。その中で様々な力をつけてきたと言えます。ある時から、母子だけになったり、3歳児神話のようなことがまことしやかに言われ、赤ちゃんにとってお母さんが一番いいということが=お母さんだけでいいとなってきてしまっているんですね。その子が大きくなり、三項関係からの学びが少ない分、集団に対しての抵抗や、ストレスが大きくなることなので、危惧することだが、よくうちでもそうだが、保育者が面接に来たりすると、うちは定員が大きい。保育園の集団が大きいと、小規模に行きたい。園が大きいと、ストレスがたまるとやめる人が出ます。当然、小さい方がストレスがたまらないかもしれませんが、集団が大きいからこそ、脳が大きくなっていくんですね。少子化になったりして、小さいうちから集団に入っていない。そうすると、脳のセンシティブリティや様々なことを考えると、9か月を過ぎたころから、社会の中において、子どもを育てるべきとわかるんですね。集団が嫌なだけではなく、東京の最近の傾向は、待機児が減ったと同時に、0歳児の入園希望が減り、空きが出ています。世田谷区の新園は、0歳児クラスは作らなくてもいいと言われることがあるそうです。これがどういうことかということ、役所の人もわかっているのかわかりませんが、うちも0歳児が空くんです。まず育休が1歳まで取れるようになります。0歳児クラスはお母さんがいいと。1歳まで育休を取るとしますね。前は入りにくかったから4月から前倒していましたが、フルに1歳まで育休を取ります。1歳になって入園をしようとする人が多いんですね。1歳になってから入る場所は、0歳児クラスなんですね。0歳児クラスをなくすことは、育休が2歳まで取れるようにならないといけないんです。都会は2歳まで取りはじめているか、働きはじめるのが2歳近くになるまで働かないかですが、そういうことが起きている。長崎に行ったら、「まだまだ0の希望が多い」と言っていたが、それは間違いです。東京と地方の違いではなくて、東京の方が減少が先に来る。今に、地方も0が空いてきますよ。国が2歳3歳まで育休を取る方針でいるからです。そうすると確かに家で2、3歳まで見ることは出来ます。園も作らなくていいです。どうしてもという人には、ベビーシッターに補助金を出すと言っていますけど、問題は9か月くらいから社会的ネットワーク、子ども集団の中で育てることが欠けてきてしまうんですね。人類の進化の過程からしたら、おかしな話。はっきり言って、これをぜひ食い止めないといけない。

## —脳の感受性—

2歳まで3歳まで家にいることは、脳のセンシティブリティの高さ、3歳未満がピークになるときに、母子しかいない中で育てることになり危惧しないといけないことで、その子のためというより、日本の社会がどう成り立っていくかということですね。そう考えた時に私は、子ども同士の関わりをしたら、園で見たらわかるが、集団の中で物を取り合って我慢したり、気を紛らわすことは0でもおきます。そこから立ち直ったり、我慢をして他の遊びをしたりします。0歳児から実行機能やエモーションコントロールが身についていることですね。0歳から必要です。この集団が必要だが、仲間と共同思考力をしているとは0歳では言えません。1歳児クラスになると象徴機能と言って、見立て遊びをし始めます。隣で遊んでいる子がリングをご飯に見立てている子がいれば、自分も少しずつ遊びはじめます。昔の並行あそびの関わらないことはなくて、少しずつ関わりはじめます。共同思考力、協力して何かをすることは無いです。それが2歳児クラスだと思うんですね。脳のセンシティブリティのピアソーシャルスキルの脳の感受

性を見ると、ピークが2歳児です。子ども同士の同僚性、子ども同士徒党を組んで、群れを組むというのは2歳から3歳がピークになる。この頃と同じくらいの年齢と共同思考力を身につけるべきだと。3,4,5になった時にばらばらになってしまうのではないかと、私は2歳をそういう意味でターニングポイントとして、単独クラスにすることを提案しているんですね。1,2歳をどうどうするところがあるが、1,2歳とでは、そこが大きく違います。一人ずつ遊ぶのは大丈夫のように見えますが、実は共同思考力のようにお互いの意見を出し合っ、一つの解決方法を見つけることや、一つの作業をするのは2歳児クラスなので、一つのクラスにすると。3,4,5はそれをより深めるためには、違う年齢同士の助け合いや、教える教わる中からより物事を定着していくため、私の大きなクラス分けはそういう意味で、一番提案したい子ども同士の関わり。共同思考力を身につけるための乳幼児期ということにおいて、2歳が1つのターニングポイントですと話をしました。環境も、お集まりをするときも円形で集まってお互い見えるようになっていますし、丸くなって意見を言い合えるようにするとか、2歳の空間的環境、物の環境もそこをポイントにして用意しています。基本はまずそこを見ながら何で2歳か、何でこういう保育かを考えてみるといいと思っています。

本稿は、2021年10月19日に開催した「GTサミット2021」の基調講演の内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)